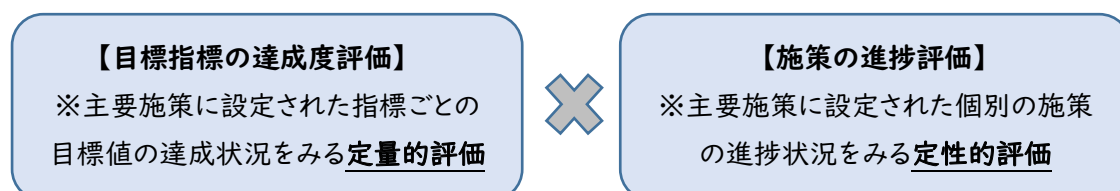


第2次浅口市総合計画（前期基本計画）の評価まとめ

1. 評価の考え方

前期基本計画の構造を踏まえ、目標指標の達成状況を評価するとともに、各施策の進捗状況について担当課が評価を行い、その積み上げ等により計画全体の評価を行います。



【参考】第2次浅口市総合計画（前期基本計画）の構造

政策 (7)	主要施策 (31)	指標数 (83)	施策数 (100)
1 地域資源の活用と新たな ビジネスの展開による産業力の強化	1 多彩な地域資源を活かした農林漁業の振興	4	4
	2 工業団地を中心にした工業振興と地場産業の育成	2	2
	3 楽しさとにぎわいを創出する商業の振興	3	2
	4 6次産業化や起業支援などによる新たな活力の創出	3	4
2 新たな観光展開と移住・定住の促進	1 資源を磨き個性を輝かせる観光の振興	5	4
	2 移住・定住対策の促進	5	3
3 だれもが健やかに暮らし 支え合う地域づくり	1 みんなの健康づくりのための保健・医療体制の充実	2	4
	2 市民相互に支え合う地域福祉の充実	1	3
	3 安心して産み育てることができる子育て支援の充実	1	6
	4 生きがいを持って暮らせる高齢者福祉の充実	3	4
	5 互いに理解しともに生きる障がい者福祉の充実	3	4
4 夢を育む教育と地域文化の振興	1 幼児教育・学校教育の充実	3	2
	2 豊かな人生を育む生涯学習の充実	2	3
	3 スポーツ活動の振興	1	2
	4 歴史文化の保全活用と芸術文化の振興	4	3
	5 グローバルな感性を育む国際交流の促進	2	3
5 自然と共生した 安心・安全なまちづくりの推進	1 豊かな自然環境の保全と環境教育の推進	1	5
	2 資源・エネルギーの循環型社会の形成	2	2
	3 安全を確保する防災体制の整備	5	4
	4 治山・治水など防災対策の推進	1	2
	5 生活安全対策の推進	3	3
6 快適で利便性の高い 都市・生活空間の整備	1 計画的な土地利用の推進	1	2
	2 都市的土地利用を促す市街地の整備	1	2
	3 広域・地域間交流を担う道路網の整備	3	3
	4 市民生活の利便性向上のための公共交通体系の充実	2	3
	5 ゆとりある住環境の整備	4	5
	6 都市・生活基盤としての上・下水道の整備	4	2
7 住民自治と協働の推進	1 協働のまちづくりのための市民参画の推進	3	4
	2 だれもが活躍できる社会の実現	3	4
8 効果的・戦略的な行財政の運営	1 開かれた役所と効率的な行政機構の推進	3	3
	2 戦略的で健全な財政運営	3	3

※指標数には「再掲の指標」や「一つの指標名で複数の目標を設定している指標」を含む

★評価における主な留意点

- 前期基本計画の計画期間は平成 29 年度～令和3年度までの5年間であり、本評価は前期基本計画を総括することを目的とするものではありません。
- 本評価の目的は、後期基本計画策定に向けて現時点の取組・達成状況を把握・分析することです。
- 各施策は計画の最終年度の目標達成に向けて、毎年度の取組を積み上げながら推進されていることを前提に、本評価は原則として直近（主に令和2年度）のデータ等を活用し取りまとめを行います。
- なお、令和2年度の新型コロナウイルス感染症拡大の影響で一部の取組が中断等しているケースがあります。

2. 「目標指標の達成度評価」のまとめ

【参考】「目標指標の達成度評価」の基準

目標指標の達成度評価は、計画に設定された 83 の指標の達成率について、次のような基準で評価を行い、結果を取りまとめます。

- A 達成：目標値を達成した指標
- B 改善：目標値に達していないが、現状値より改善している指標
- C 変化なし：現状値から変化していない指標（維持を目標としている指標は除く）
- D 悪化：現状値より悪化した指標
- E 評価不可：計画期間の実績が把握できない等、評価が困難な指標

＜達成率の算出方法＞

前期基本計画の指標は、大きく次の 2 種類の指標が設定されており、それぞれの指標の性格を踏まえ、達成率の算定方法を設定します。

指標分類	増加・減少目標指標	維持目標指標（および新規目標指標）
指標説明	現状値より増加、あるいは減少させることを目標とした指標 <例> 増加目標指標：認知症サポーター人数 減少目標指標：介護認定率	現状の維持・変化抑制を目標とした指標（および新規の（現状値のない）指標） <例> 維持目標指標：民間バス路線数 新規目標指標：新規創業数
達成率の算定方法	$\frac{\text{（実績値-現状値）}}{\text{（目標値-現状値）}}$ <small>※実績値の、基準となる現状値から目標値までの接近度合いを算出</small>	$\frac{\text{実績値}}{\text{目標値}}$ <small>※基準となる現状値に関わらず、目標値と実績値の接近度合いを算出</small>

※指標「浅口工業団地造成（Ⅱ期）」「広域観光ルートの設定」など、目標値が数値ではなく「分譲開始」「設定済み」等で設定されている場合、達成率の算出は行わず、実施の有無等で評価を判定する

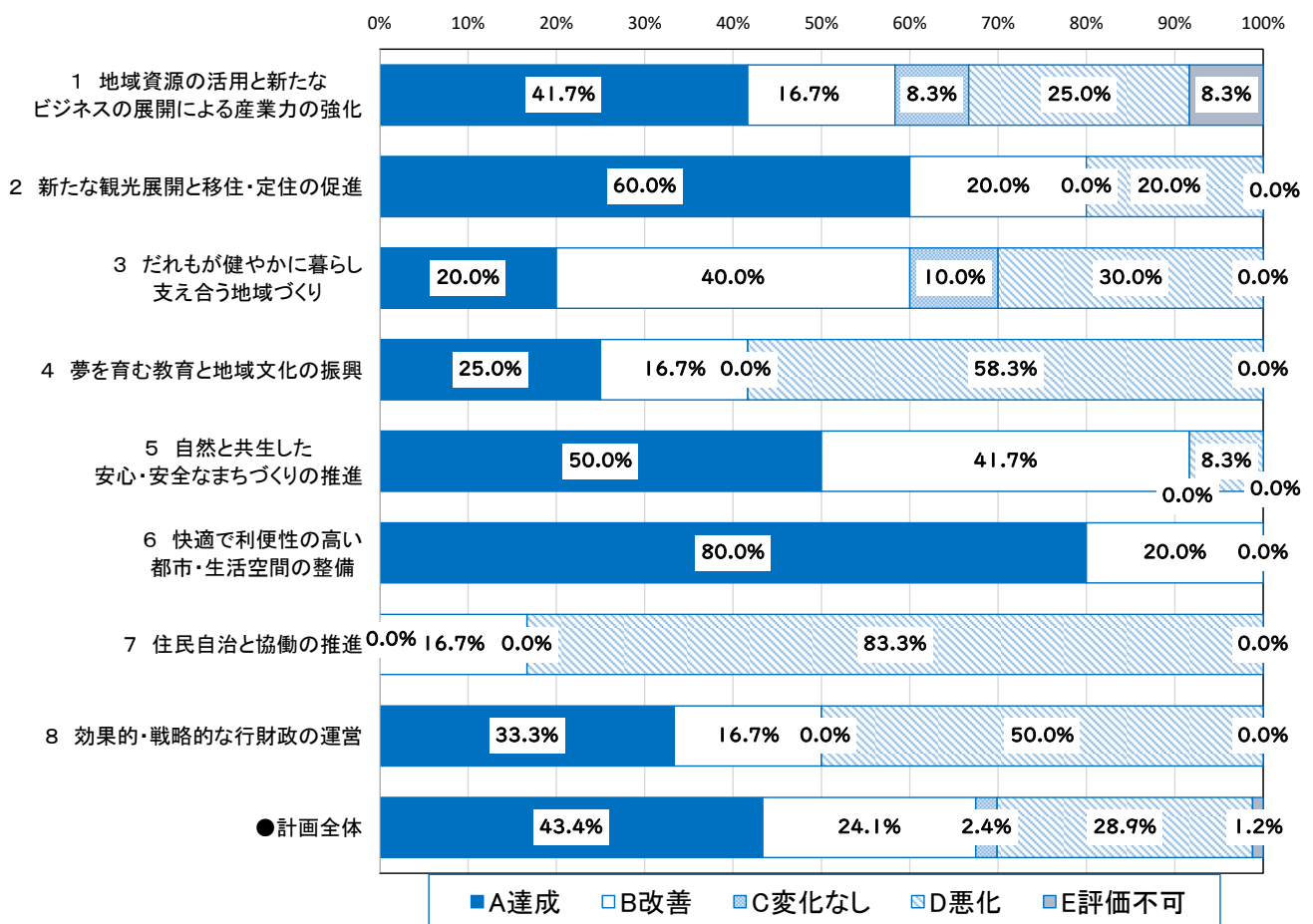
Ⅰ 指標の達成度評価結果

計画全体の 83 の指標の達成度評価結果についてみると、「A 達成」が 43.4% (36 指標)、「B 改善」が 24.1% (20 指標)、「C 変化なし」が 2.4% (2 指標)、「D 悪化」が 28.9% (24 指標)、「E 評価不可」が 1.2% (1 指標)となっています。

政策ごとの指標の達成度評価の結果について「A 達成」の状況をみると、「6 快適で利便性の高い都市・生活空間の整備」が 80.0%と 8 つの政策の中で最も割合が高くなっています

一方で、「7 住民自治と協働の推進」については、0.0%と、最も割合が低くなっています

<政策ごとの指標達成割合>



※四捨五入の関係で割合の合計が 100.0%にならない場合があります

2 主要施策ごとの指標の達成度評価

I 地域資源の活用と新たなビジネスの展開による産業力の強化

12の目標指標のうち、「A 達成」が41.7%（5指標）、「B 改善」が16.7%（2指標）、「C 変化なし」が8.3%（1指標）、「D 悪化」が25.0%（3指標）、「E 評価不可」が8.3%（1指標）となっています。

【指標の達成度評価】

目標指標			現状値		目標値		実績値		達成率	評価
指標の名称	方向性	単位	数値	年度	数値	年度	数値	年度		
I-1 多彩な地域資源を活かした農林漁業の振興										
農道、水路などの整備延長	↑	m/年	277	H27	300	H29~R3平均	386	H29~R2平均	473.9%	A
ため池の補強整備	→	カ所/年	1	H27	1	H29~R3平均	1	H29~R2平均	100.0%	A
認定農業者数	↑	人	22	H27	25	R3	16	R2	-200.0%	D
漁業者数	→	人	69	H28	69	R3	68	R2	-1.4%	D
I-2 工業団地を中心とした工業振興と地場産業の育成										
浅口工業団地造成（Ⅱ期）	-	-	-	-	分譲開始	-	-	-	-	D
中小企業成長支援事業利用件数	↑	件/年	9	H27	20	H29~R3平均	10	H29~R2平均	9.1%	B
I-3 楽しさにぎわいを創出する商業の振興										
中小企業成長支援事業利用件数【再掲】	↑	件/年	9	H27	20	H29~R3平均	10	H29~R2平均	9.1%	B
特産品開発事業（あさくちブランド認定品）	↑	個	24	H27	30	R3	36	R2	200.0%	A
年間商品販売額	↑	百万円	28,783	H26	26,365	R3	【参考値】 34,989	H28	-	E
I-4 6次産業化や起業支援などによる新たな活力の創出										
農業参入企業数	↑	社	1	H26	3	R3	1	R2	0.0%	C
特産品開発事業（あさくちブランド認定品）【再掲】	↑	個	24	H27	30	R3	36	R2	200.0%	A
新規創業数	↑	社	-	-	2	R3	7	R2	350.0%	A

【評価が「D 悪化」（「E 評価不可」）となった指標の概要】

指標	評価の概要
認定農業者数	後継者不足によるもの。農業者の所得が上がっていないことも未達成の要因。
漁業者数	後継者不足によるもの。漁業後継者に対し補助金を交付しているが、なり手が不足している。
浅口工業団地造成（Ⅱ期）	一部地権者から同意が得られず、造成工事に着手できていない。
年間商品販売額	経済産業省の統計（経済センサス活動調査）に基づいており、関連する調査が令和3年に実施されることから、現時点では「E 評価不可」。

II 新たな観光展開と移住・定住の促進

10の目標指標のうち、「A達成」が60.0%(6指標)、「B改善」が20.0%(2指標)、「C変化なし」が0.0%(0指標)、「D悪化」が20.0%(2指標)、「E評価不可」が0.0%(0指標)となっています。

「観光・交流客集客数」「移動数(転入-転出)」「岡山県外からの移住者数」については、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響で令和2年度の実績値は令和元年度と比べ減少しています。

【指標の達成度評価】

目標指標			現状値		目標値		実績値		達成率	評価
指標の名称	方向性	単位	数値	年度	数値	年度	数値	年度		
2-1 資源を磨き個性を輝かせる観光の振興										
観光協会ホームページのリニューアル	-	-	モデルコース 未掲載	H28	モデルコース 掲載済み	R3	モデルコース 掲載済み	R2	-	A
	-	-	スマートフォン 未対応	H28	スマートフォン 対応済み	R3	スマートフォン 対応済み	R2	-	A
広域観光ルートの設定	-	-	未設定	H28	設定済み	R3	設定済み	R2	-	A
マルチメディアを活用した観光PR回数	↑	回/年	1	H27	10	H29~R3平均	30	H29~R2平均	322.2%	A
観光・交流客集客数	↑	万人	21	H27	22	R3	9 (21)	R2 (R1)	-1200.0%	D
2-2 移住・定住対策の促進										
移動数(転入-転出)	↑	人	▲56	H27	0	R3	▲10 (14)	R2 (R1)	82.1%	B
岡山県外からの移住者数	↑	世帯	29	H27	50	R3	35 (49)	R2 (R1)	28.6%	B
	↑	人	47	H27	75	R3	46 (63)	R2 (R1)	-3.6%	D
空き家情報バンク登録物件戸数	↑	戸	19	H27	40	H29~R3累計	76	H29~R2累計	271.4%	A
土地情報バンク登録物件面積	↑	m ²	0	H28	3,000	H29~R3累計	18,892	H29~R2累計	629.7%	A

※コロナ感染症の影響が大きいと考えられる場合、令和元年度の実績も併記しています(以降も同様)

【評価が「D悪化」となった指標の概要】

指標	評価の概要
観光・交流客集客数	新型コロナウイルス感染拡大の影響による。
岡山県外からの移住者数	新型コロナウイルス感染拡大の影響による。 移住相談会も開催できなかった。

Ⅲ だれもが健やかに暮らし支え合う地域づくり

10の目標指標のうち、「A達成」が20.0%(2指標)、「B改善」が40.0%(4指標)、「C変化なし」が10.0%(1指標)、「D悪化」が30.0%(3指標)、「E評価不可」が0.0%(0指標)となっています。

「介護予防教室(一次予防)参加者数」については、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響で令和2年度の実績値は令和元年度までと比べ減少しています。

【指標の達成度評価一覧】

目標指標			現状値		目標値		実績値		達成率	評価
指標の名称	方向性	単位	数値	年度	数値	年度	数値	年度		
3-1 みんなの健康づくりのための保健・医療体制の充実										
メタボリックシンドロームに該当する人の割合	↓	%	16.4	H27	14.0	R3	19.1	R2	-112.5%	D
予防接種率(はしか、風しん2期)	↑	%	93.4	H27	95.0	R3	96.1	R2	168.8%	A
3-2 市民相互に支え合う地域福祉の充実										
自立支援プログラムによる支援世帯数	↑	世帯	3	H27	10	H29~R3延べ	3	H29~R2延べ	0.0%	C
3-3 安心して産み育てることができる子育て支援の充実										
保育の確保量	↑	人	592	H28	872	R3	739	R3	52.5%	B
3-4 生きがいを持って暮らせる高齢者福祉の充実										
介護認定率	↓	%	16.8	H27	16.0	R3	17.4	R2	-75.0%	D
認知症サポーター人数	↑	人	6,937	H28	8,000	R3	9,479	R3	239.1%	A
介護予防教室(一次予防)参加者数	↑	人/年	2,236	H27	2,300	H29~R3平均	2,280 (2,469)	H29~R2平均 (H29~R1平均)	68.8%	B
3-5 互いに理解しともに生きる障がい者福祉の充実										
就労継続支援受給者数	↑	人	100	H27	150	R3	125	R2	50.0%	B
地域定着支援受給者数	↑	人	11	H27	20	R3	8	R2	-33.3%	D
地域活動支援センター利用者	↑	人	20	H27	40	R3	25	R2	25.0%	B

【評価が「D悪化」となった指標の概要】

指標	評価の概要
メタボリックシンドロームに該当する人の割合	令和2年度は、特定健診受診者が新型コロナウイルス感染拡大の影響により減少している。 そのような中、メタボリックシンドロームに該当する人は特定健診を受診しているが、メタボリックシンドロームに該当しない人が特定健診受診を控えたため、該当する人の割合が増加した可能性がある。 また、メタボリックシンドロームの主な対処法は、食生活の改善や運動不足の解消といった、生活習慣の改善となる。 こうした市民の生活習慣は、市の施策・事業以上に社会・経済、就労状況等の影響を受けると考えられるため、目標指標として不適切であり、代替の目標指標を検討する必要がある。
介護認定率	後期高齢者数増加に伴い認定率が高まっていると考えられる。 要介護認定は、高齢化社会において上昇していくことが必然であり、また、上昇することが悪いことではないと考える。(ただし、高齢者数は令和8年度から減少に転じる見込みで、これに伴い認定率も減少に転じる可能性がある) 市が施策を実施することで改善できるような指標ではなく目標指標として不適切であり、代替の目標指標を検討する必要がある。
地域定着支援受給者数	地域定着支援(地域生活を継続するための見守り支援)の対象は、単身で生活する障害のある方であり、その減少は「見守り支援を必要とする人が減った」とも言えるため、数字が悪くなったとは言いきれない。 目標指標として不適切であり、代替の目標指標を検討する必要がある。

IV 夢を育む教育と地域文化の振興

12の目標指標のうち、「A達成」が25.0%(3指標)、「B改善」が16.7%(2指標)、「C変化なし」が0.0%(0指標)、「D悪化」が58.3%(7指標)、「E評価不可」が0.0%(0指標)となっています。

「スポーツ施設の利用者数」をはじめ7つの指標で、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により令和2年度の実績値の減少がみられます。一方で、「国際交流事業参加者数」については、コロナを契機としたSNS等の活用により、令和2年度の実績が増加しています。

【指標の達成度評価一覧】

目標指標			現状値		目標値		実績値		達成率	評価
指標の名称	方向性	単位	数値	年度	数値	年度	数値	年度		
4-1 幼児教育・学校教育の充実										
家庭学習1日1時間以上の児童・生徒の割合(5年生以上)	↑	%	72.2	H28	90.0	R3	86.6	R2	80.9%	B
スマホなどの利用1日1時間未満の児童・生徒の割合(5年生以上)	↑	%	74.5	H28	80.0	R3	63.0 (64.8)	R2 (R1)	-209.1%	D
朝食摂取する児童・生徒の割合(5年生以上)	↑	%	84.6	H28	90.0	R3	89.9	R2	98.1%	B
4-2 豊かな人生を育む生涯学習の充実										
中央公民館の耐震・改修	-	-	-	-	実施	H29	実施	H29	-	A
貸出図書数	↑	冊/年	194,696	H27	250,000	H29~R3平均	183,493 (188,662)	H29~R2平均 (H29~R1平均)	-20.3%	D
4-3 スポーツ活動の振興										
スポーツ施設の利用者数	↑	人/年	273,403	H27	300,000	H29~R3平均	225,671 (249,258)	H29~R2平均 (H29~R1平均)	-179.5%	D
4-4 歴史文化の保全活用と芸術文化の振興										
かもがた町家公園入園者数	↑	人	34,570	H27	36,000	R3	20,403 (31,375)	R2 (R1)	-990.7%	D
岡山天文博物館入館者数	↑	人	12,749	H27	18,000	R3	10,225 (18,836)	R2 (R1)	-48.1%	D
文化協会の会員数	↑	人	1,903	H27	2,000	R3	1,474 (1,700)	R2 (R1)	-442.3%	D
文化連盟体験講座参加者数	↑	人	60	H27	500	R3	0 (656)	R2 (R1)	-13.6%	D
4-5 グローバルな感性を育む国際交流の促進										
国際交流事業参加者数	↑	人	248	H27	350	R3	543	R2	289.2%	A
英語活動年間計画(指導資料)の見直し	-	-	策定	H18	見直し	毎年度	見直し	毎年度	-	A

【評価が「D悪化」となった指標の概要】

指標	評価の概要
スマホなどの利用1日1時間未満の児童・生徒の割合(5年生以上)	新型コロナウイルス感染症拡大により、巣ごもりが増加したため。
貸出図書数	新型コロナウイルス感染症拡大による施設使用停止が要因。
スポーツ施設の利用者数	※なお、コロナを契機に岡山天文博物館によるWEBを活用した「おうちくぶつかん」を開設するなどの取り組みを実施した。
かもがた町家公園入館者数	※文化協会の会員数については、公民館講座の終了後に、文化協会に加入していただけるような流れを作ることを検討中。
岡山天文博物館入館者数	
文化協会の会員数	
文化連盟体験講座参加者数	

V 自然と共生した安心・安全なまちづくりの推進

12の目標指標のうち、「A達成」が50.0%(6指標)、「B改善」が41.7%(5指標)、「C変化なし」が0.0%(0指標)、「D悪化」が8.3%(1指標)、「E評価不可」が0.0%(0指標)となっています。

「犯罪発生件数」を除き、いずれの指標も計画最終年度の目標達成に向けた進捗がみられます。

【指標の達成度評価一覧】

目標指標			現状値		目標値		実績値		達成率	評価
指標の名称	方向性	単位	数値	年度	数値	年度	数値	年度		
5-1 豊かな自然環境の保全と環境教育の推進										
環境基本計画の見直し	-	-	策定	H24	見直し	H30	策定	H30	-	A
5-2 資源・エネルギーの循環型社会の形成										
ごみの排出抑制(総排出量)	↓	t	12,320	H26	11,438	H30	12,077	R1	27.6%	B
リサイクル率	↑	%	17.6	H26	24.0	H30	19.90	R1	35.9%	B
5-3 安全を確保する防災体制の整備										
地域防災計画の見直し	-	-	見直し	H27	見直し	H30	見直し	H30	-	A
自主防災組織率	↑	%	63.7	H28	70.0	R3	70.6	R2	109.5%	A
防災行政無線の設備更新	-	-	-	-	更新	R3	更新施工中	R3	-	B
備蓄品(食糧)の整備率	↑	%	80.0	H28	100.0	R3	88.7	R2	43.5%	B
避難行動要支援者名簿登録制度	-	-	実施	-	実施	H29~R3	実施	H29~R2	-	A
5-4 治山・治水など防災対策の推進										
河川護岸整備及びしゅん濇実施延長	↑	m/年	1,250	H26	500	H29~R3平均	2,294	H29~R2平均	458.8%	A
5-5 生活安全対策の推進										
死亡事故件数	↓	件/年	2	H28	0	H29~R3平均	1	H29~R2平均	50.0%	B
人身事故件数	↓	件/年	158	H28	130	H29~R3平均	72	H29~R2平均	307.1%	A
犯罪発生件数	↓	件/年	130	H28	110	H29~R3平均	163	H29~R2平均	-165.0%	D

【評価が「D悪化」となった指標の概要】

指標	評価の概要
犯罪発生件数	行政で犯罪数を直接減らすことは難しく、指標とすることが適当ではない。 ※防犯カメラ設置数や防犯灯のLED化率など、別の指標を検討予定。

VI 快適で利便性の高い都市・生活空間の整備

15の目標指標のうち、「A達成」が80.0%(12指標)、「B改善」が20.0%(3指標)、「C変化なし」「D悪化」「E評価不可」はいずれも0.0%(0指標)となっています。

すべての指標が計画最終年度の目標達成に向けて進捗しています。

【指標の達成度評価一覧】

目標指標			現状値		目標値		実績値		達成率	評価
指標の名称	方向性	単位	数値	年度	数値	年度	数値	年度		
6-1 計画的な土地利用の推進										
都市計画マスタープランの改定	-	-	着手	H28	完成	H29	完成	H29	-	A
6-2 都市的土地利用を促す市街地の整備										
JR金光駅周辺整備	-	-	工事着手	H28	工事完成	R2	完成	H28~R2	-	A
6-3 広域・地域間交流を担う道路網の整備										
市道改良率	↑	%	34.2	H27	34.5	R3	35.0	R2	266.7%	A
市道舗装率	↑	%	79.4	H27	79.3	R3	80.1	R2	101.0%	A
橋梁など点検数	↑	-	322	H28	411	R3	418	R2	107.9%	A
6-4 市民生活の利便性向上のための公共交通体系の充実										
民間バス路線数	→	路線	2	H28	2	R3	2	R2	100.0%	A
市営バス「浅口ふれあい号」利用者数	↑	人	28,527	H27	30,000	H29~R3平均	31,353	H29~R2平均	191.9%	A
6-5 ゆとりある住環境の整備										
土地情報バンク登録物件面積【再掲】	↑	m ²	0	H28	3,000	H29~R3累計	18,892	H29~R2累計	629.7%	A
未利用市有地の宅地化面積	↑	m ²	0	H28	5,000	H29~R3累計	7,492	H31	149.8%	A
着工住宅(新築)戸数	↑	戸	128	H27	650	H29~R3累計	609	H29~R2累計	92.1%	B
空家等対策計画の策定	-	-	-	-	策定	H29	策定	H29	-	A
6-6 都市・生活基盤としての上・下水道の整備										
水道施設更新計画の策定	-	-	-	-	策定	H29	策定	H30	-	A
下水道処理(面積)	↑	ha	904.4	H28	1032.8	R3	972.0	R2	52.6%	B
下水道処理(整備率)	↑	%	72.5	H28	80.9	R3	77.2	R2	56.0%	B
合併処理浄化槽の設置	↑	基	1,680	H28	1,325	R3	1,845	R2	139.2%	A

Ⅶ 住民自治と協働の推進

6の目標指標のうち、「A 達成」が 0.0% (0指標)、「B 改善」が 16.7% (1指標)、「C 変化なし」が 0.0% (0指標)、「D 悪化」が 83.3% (5指標)、「E 評価不可」が 0.0% (0指標)となっています。

【指標の達成度評価一覧】

目標指標			現状値		目標値		実績値		達成率	評価
指標の名称	方向性	単位	数値	年度	数値	年度	数値	年度		
7-1 協働のまちづくりのための市民参画の推進										
市民提案型協働事業数	↑	事業	5	H28	8	R3	4	R2	-33.3%	D
協議会型住民自治組織数	↑	-	-	-	5	R3	0	R2	-	D
地域おこし協力隊員数	↑	人	2	H28	3	R3	1	R2	-100.0%	D
7-2 だれもが活躍できる社会の実現										
人権相談開催回数	→	回	36	H27	36	R3	28 (35)	R2 (R1)	-22.2%	D
審議会などへの女性登用率	↑	%	28.5	H28	30.0	R3	29.97	R2	98.0%	B
男女共同参画市民講座などの開催回数	↑	回	1	H26	2	R3	0	R2	-100.0%	D

【評価が「D 悪化」となった指標の概要】

指標	評価の概要
市民提案型協働事業数	アイデアが出尽くした感があり、同じ自治組織が提案するケースが多くなっている。 本事業に取り組む新たな団体の掘り起こしが必要。
協議会型住民自治組織数	地域支援員(4名)で導入を進めているものの、設立まで至っていない状況。
地域おこし協力隊	一時のブームは去った。 農業に特化する等、専門性を絞って活用していきたい。
人権相談開催回数	新型コロナウイルス感染症の拡大の影響で令和2年度は一部実施できなかった。 今年度は今のところ例年通りに開催している。
男女共同参画市民講座などの開催回数	参加者が見込めないため、令和元年より実施していない。 今後、後期計画策定に向け、だれもが活躍できる社会の実現のための新たな目標指標の設定を検討する。

VIII 効果的・戦略的な行財政の運営

6の目標指標のうち、「A 達成」が33.3%(2指標)、「B 改善」が16.7%(1指標)、「C 変化なし」が0.0%(0指標)、「D 悪化」が50.0%(3指標)、「E 評価不可」が0.0%(0指標)となっています。

【指標の達成度評価一覧】

目標指標			現状値		目標値		実績値		達成率	評価
指標の名称	方向性	単位	数値	年度	数値	年度	数値	年度		
8-1 開かれた役所と効率的な行政機構の推進										
第3次行政改革プラン達成率	↑	%	-	-	100.0	R3	86.7	R1	86.7%	B
情報化の基本方針の策定	-	-	-	-	策定	R3	策定	H30	-	A
職員研修受講者数(延べ人数)	↑	人	860	H27	900	R3	715 (788)	R2 (R1)	-362.5%	D
8-2 戦略的で健全な財政運営										
経常収支比率	↓	%	85.4	H27	85.0	R3	94.9	R1	-2375.0%	D
実質公債費比率	↓	%	10.6	H27	10.0	R3	10.9	R1	-50.0%	D
将来負担比率	↓	%	18.4	H27	18.0	R3	11.5	R1	1725.0%	A

【評価が「D 悪化」となった指標の概要】

指標	評価の概要
職員研修受講者数(延べ人数)	新型コロナウイルス感染症対策のため、中止や受講者数を減少せざるを得なかった。
経常収支比率	財政状況は非常に厳しい。
実質公債費比率	独自施策の実施については、財政の健全化を含め検討するべき。

3. 「施策の進捗評価」のまとめ

【参考】「施策の進捗評価」の手法

前期基本計画は、原則として「政策」-「主要施策」-「施策」といった3階層で構成されています。

このうち最少単位となる施策ごとに、次の3つの評価基準により点数化を行い、これを積み上げ、平均値を算出することで「施策」だけでなく、より上位の階層である「主要施策」や「政策」、そして計画全体の進捗度評価を行います。

※一つの施策を複数の課が評価している、あるいは一つの施策を複数の項目ごとに分けて評価している場合は、その平均点を評価に用いています。

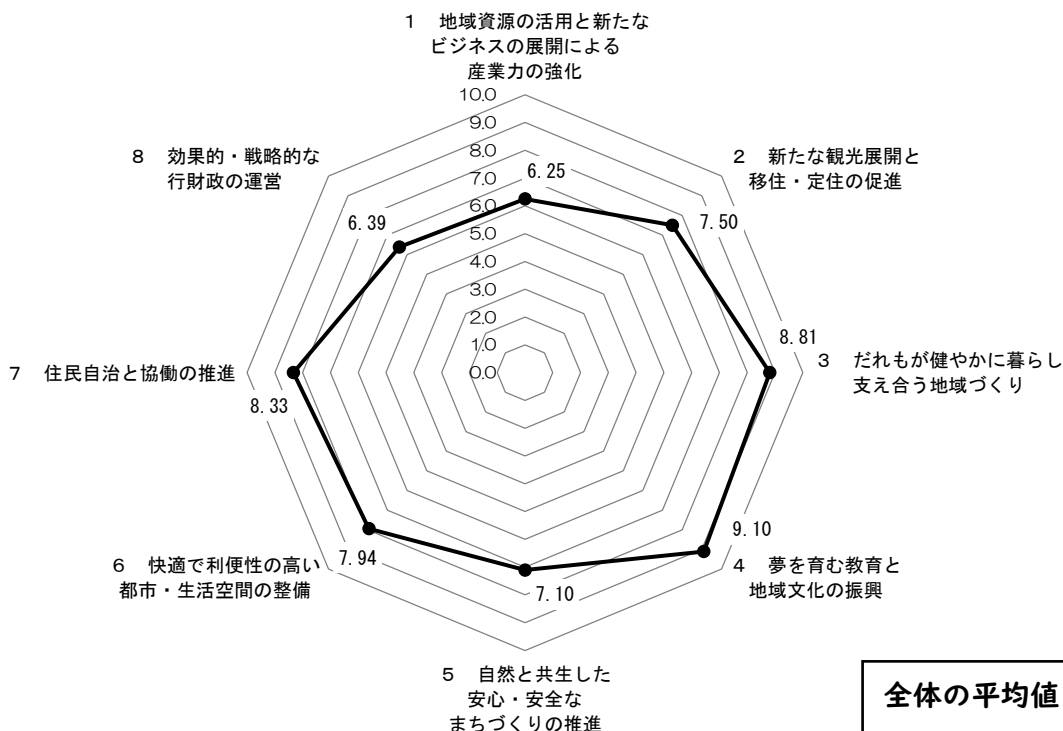
＜計画の進捗評価の基準＞	
評価基準	評価点
(計画通り)実施	10
一部、実施	5
未実施	0

Ⅰ 進捗評価結果

計画全体の進捗評価の平均値は7.85(「(計画通り)実施」と「一部、実施」の中間程度の水準)となっています。

政策ごとの進捗評価は、「4 夢を育む教育と地域文化の振興」の平均値が9.10と最も良い評価となっており、その他に「3 だれもが健やかに暮らし支え合う地域づくり」「6 快適で利便性の高い都市・生活空間の整備」「7 住民自治と協働の推進」が全体の平均値を上回っています。

＜主要施策ごとの評価＞

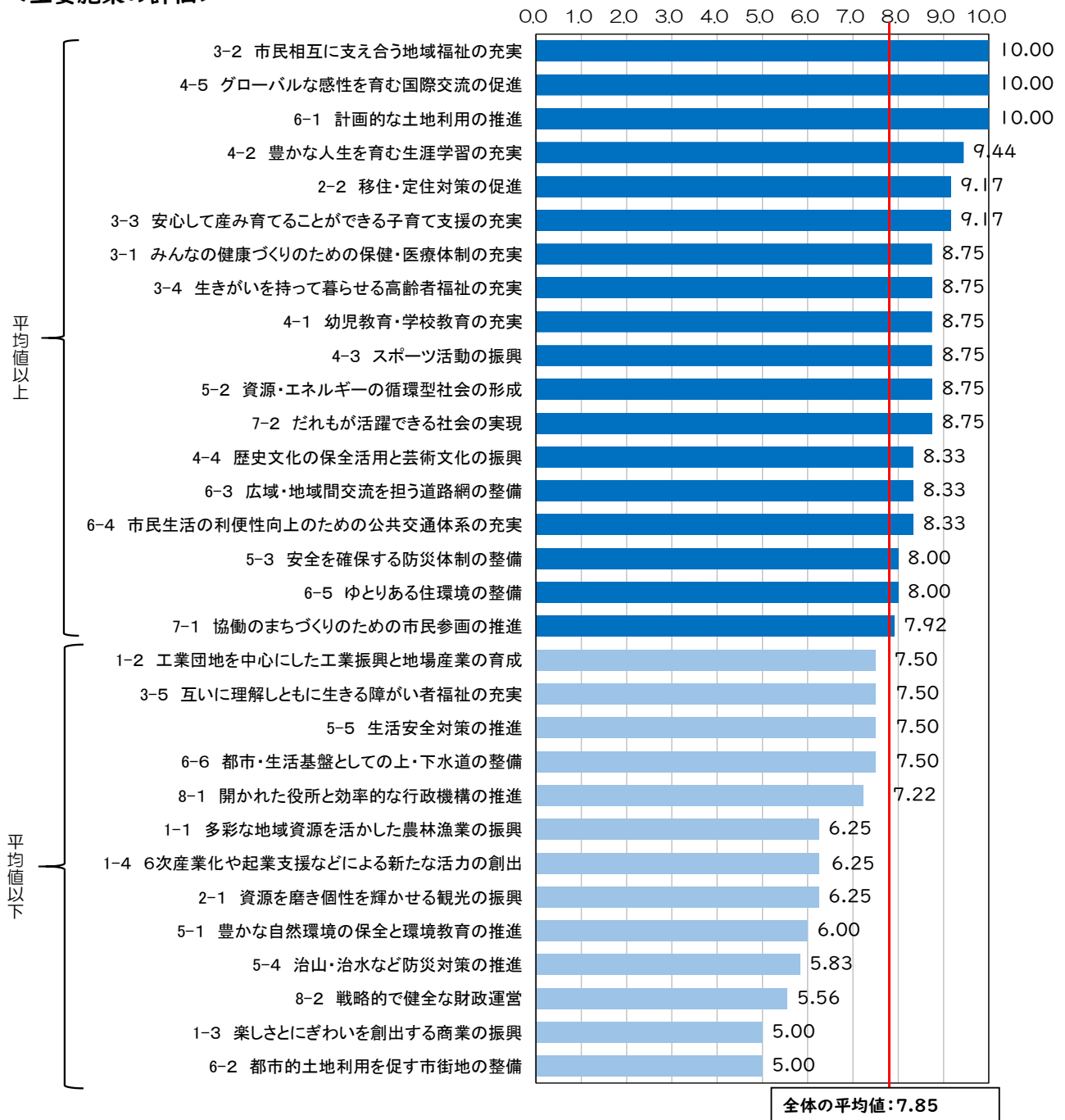


2 主要施策ごとの進捗評価結果

31 の主要施策ごとの進捗評価結果をみると、「3-2 市民相互に支え合う地域福祉の充実」「4-5 グローバルな感性を育む国際交流の促進」「6-1 計画的な土地利用の推進」が 10.00 と最も良い評価となっています。

一方で、「1-3 楽しさとにぎわいを創出する商業の振興」「6-2 都市的土地利用を促す市街地の整備」は 5.00 と平均値が最も低くなっています。

<主要施策の評価>



※グラフの「1-1」「2-1」等は、先頭の数字が『政策』の番号、後ろの数字が『主要施策』の番号を表す

4. 「目標指標の達成度評価」および「施策の進捗評価」の乖離の検証

ここでは「目標指標の達成度評価」および「施策の進捗評価」の結果から、それぞれの評価の乖離の状況を検証しています。

評価の視点	評価結果
目標指標の達成度評価	計画全体の83の指標のうち、「A 達成」が43.4%、「B 改善」が24.1%、「C 変化なし」が2.4%、「D 悪化」が28.9%、「E 評価不可」が1.2% ⇒達成は約4割(※「B 改善」を合わせると、約7割が目標の達成に向かって進んでいる)
施策の進捗評価	計画全体の施策の進捗評価の平均値は7.85(「(計画通り)実施」と「一部、実施」の中間程度の水準)

計画期間が残り9か月程度(※調査時点)となっている中で、施策の進捗度と、目標指標の達成度(※指標については概ね令和2年度末時点の実績)には、計画全体でみる限り大きな乖離はみられない状況です。

一方で、主要施策ごとでみると、一部の施策で乖離がみられます。

【乖離が生じると考えられる主な要因】

- ◇数値目標達成のための施策や事業の過不足(※目標設定が高すぎる、低すぎる)
- ◇指標と施策の関連性が薄い
- ◇施策・事業よりも指標の数値に変化を及ぼす大きな外的要因がある 等

< 「目標指標の達成度」と「施策の進捗度」の評価の主な乖離の状況 >

政策	主要施策	乖離の概要
1	3 楽しさとにぎわいを創出する商業の振興	進捗度評価の平均値「5.00」に対し、達成度評価は「A 達成」「B 改善」の指標が多い
3	2 市民相互に支え合う地域福祉の充実	進捗度評価の平均値「10.00」に対し、達成度評価は「C 変化なし」のみ
4	2 豊かな人生を育む生涯学習の充実	進捗度評価の平均値は「9.44」と「(計画通り)実施」の水準だが、達成度評価で「D 悪化」の指標がある
	3 スポーツ活動の振興	進捗度評価の平均値「8.75」に対し、達成度評価は「D 悪化」のみ ※コロナの影響あり
	4 歴史文化の保全活用と芸術文化の振興	進捗度評価の平均値「8.33」に対し、達成度評価は「D 悪化」のみ ※コロナの影響あり
5	1 豊かな自然環境の保全と環境教育の推進	進捗度評価の平均値「6.00」に対し、達成度評価は「A 達成」のみ
	4 治山・治水など防災対策の推進	進捗度評価の平均値「5.83」に対し、達成度評価は「A 達成」のみ
6	2 都市的土地利用を促す市街地の整備	進捗度評価の平均値「5.00」に対し、達成度評価は「A 達成」のみ
7	1 協働のまちづくりのための市民参画の推進	進捗度評価の平均値「7.92」に対し、達成度評価は「D 悪化」の指標が多い
	2 だれもが活躍できる社会の実現	進捗度評価の平均値「8.75」に対し、達成度評価は「D 悪化」の指標が多い ※コロナの影響あり

【参考】「目標指標の達成度」と「施策の進捗度」の評価結果比較一覧

施策／評価	達成度評価結果					進捗度評価結果			
	A達成	B改善	C変化なし	D悪化	E評価不可	実施	一部実施	未実施	平均値
1 地域資源の活用と新たなビジネスの展開による産業力の強化	5	2	1	3	1	3	10	0	6.25
1 多彩な地域資源を活かした農林漁業の振興	2	0	0	2	0	1	4	0	6.25
2 工業団地を中心にした工業振興と地場産業の育成	0	1	0	1	0	1	1	0	7.50
3 楽しさとにぎわいを創出する商業の振興	1	1	0	0	1	0	2	0	5.00
4 6次産業化や起業支援などによる新たな活力の創出	2	0	1	0	0	1	3	0	6.25
2 新たな観光展開と移住・定住の促進	6	2	0	2	0	4	4	0	7.50
1 資源を磨き個性を輝かせる観光の振興	4	0	0	1	0	1	3	0	6.25
2 移住・定住対策の促進	2	2	0	1	0	3	1	0	9.17
3 だれもが健やかに暮らし支え合う地域づくり	2	4	1	3	0	17	5	0	8.81
1 みんなの健康づくりのための保健・医療体制の充実	1	0	0	1	0	3	1	0	8.75
2 市民相互に支え合う地域福祉の充実	0	0	1	0	0	4	0	0	10.00
3 安心して産み育てることができる子育て支援の充実	0	1	0	0	0	5	1	0	9.17
4 生きがいを持って暮らせる高齢者福祉の充実	1	1	0	1	0	3	1	0	8.75
5 互いに理解しともに生きる障がい者福祉の充実	0	2	0	1	0	2	2	0	7.50
4 夢を育む教育と地域文化の振興	3	2	0	7	0	16	4	0	9.10
1 幼児教育・学校教育の充実	0	2	0	1	0	4	1	0	8.75
2 豊かな人生を育む生涯学習の充実	1	0	0	1	0	5	1	0	9.44
3 スポーツ活動の振興	0	0	0	1	0	2	1	0	8.75
4 歴史文化の保全活用と芸術文化の振興	0	0	0	4	0	2	1	0	8.33
5 グローバルな感性を育む国際交流の促進	2	0	0	0	0	3	0	0	10.00

施策／評価	達成度評価結果					進捗度評価結果			
	A達成	B改善	C変化なし	D悪化	E評価不可	実施	一部実施	未実施	平均値
5 自然と共生した安心・安全なまちづくりの推進	6	5	0	1	0	14	10	3	7.10
1 豊かな自然環境の保全と環境教育の推進	1	0	0	0	0	3	0	2	6.00
2 資源・エネルギーの循環型社会の形成	0	2	0	0	0	4	0	1	8.75
3 安全を確保する防災体制の整備	3	2	0	0	0	4	4	0	8.00
4 治山・治水など防災対策の推進	1	0	0	0	0	1	4	0	5.83
5 生活安全対策の推進	1	1	0	1	0	2	2	0	7.50
6 快適で利便性の高い都市・生活空間の整備	12	3	0	0	0	11	8	0	7.94
1 計画的な土地利用の推進	1	0	0	0	0	2	0	0	10.00
2 都市的土地利用を促す市街地の整備	1	0	0	0	0	0	2	0	5.00
3 広域・地域間交流を担う道路網の整備	3	0	0	0	0	3	1	0	8.33
4 市民生活の利便性向上のための公共交通体系の充実	2	0	0	0	0	2	1	0	8.33
5 ゆとりある住環境の整備	3	1	0	0	0	3	2	0	8.00
6 都市・生活基盤としての上・下水道の整備	2	2	0	0	0	1	2	0	7.50
7 住民自治と協働の推進	0	1	0	5	0	8	4	0	8.33
1 協働のまちづくりのための市民参画の推進	0	0	0	3	0	4	3	0	7.92
2 だれもが活躍できる社会の実現	0	1	0	2	0	4	1	0	8.75
8 効果的・戦略的な行財政の運営	2	1	0	3	0	6	9	0	6.39
1 開かれた役所と効率的な行政機構の推進	1	1	0	1	0	5	4	0	7.22
2 戦略的で健全な財政運営	1	0	0	2	0	1	5	0	5.55
合計	36	20	2	24	1	79	54	3	7.85

※進捗度評価は、一つの施策を複数の課が評価している場合等、その合計の数を記載しており、施策数と評価の数は一致しない

5. 評価結果を踏まえた後期基本計画策定に向けた考察

<評価すべき点>

◇83 の目標指標については、新型コロナウイルス感染症の拡大によりマイナスの影響を受けたと考えられる指標が14指標(全体の16.9%)となっている中で、約7割の指標が目標値を「達成」もしくは現状値より「改善」していることは評価すべき点であると考えられます。

◇また、主要施策「4-5 グローバルな感性を育む国際交流の促進」の指標「国際交流事業参加者数」のように、新型コロナウイルス感染症の拡大といった状況の中でもSNSを活用し目標達成につなげるといった柔軟な発想は、他の分野の指標の達成に向けても参考にすべき考え方であるといえます。

<改善すべき点>

◇P14 で示したように、主要施策によっては、進捗評価と達成度評価に乖離がみられます。

※なお、進捗評価については、明確な評価基準を設定することが困難である中で、あくまで各担当課の主観的な評価となることから、その評価結果には常に一定のバラつきがあることに留意しておく必要があります。

◇また、P4~11 で指標の達成状況を検証する中で、計画の施策や事業の方向性と対応しないことが明白な指標も散見されます。

◇そうした点も含め、計画の進捗管理・評価のためには、より適切な指標設定を検討することが重要であるといえます。

◇後期基本計画の策定においては、次のような視点で指標や目標値の設定、その実現のための施策の内容を検討していくことが求められます。

○実施する施策・事業の方向性に対応する指標になっているか

⇒より適切な指標があるのではないか(市の施策と関係性の薄い指標が設定されていないか)

⇒主要施策の内容を評価するための指標が不足しているのではないか

○市が実施する施策・事業以上に、社会的なトレンド(人口減少や高齢化等)や国・県・民間の取組が大きな影響を及ぼしている指標はないか

⇒人数に関する指標については、「●●数」といった実数ではなく、対象母集団に対する「●●率」への置き換えを検討してはどうか(例「介護予防教室参加者数」⇒「介護予防教室参加率」へ)

⇒新型コロナウイルス感染症の影響が顕著な指標については、ウィズコロナ・アフターコロナにおける人の動きの変化(ワクチン接種が進んでも、直ちにコロナ前の状況に戻すことは困難な可能性が高い)を踏まえ、目標値を設定していく必要があるのではないか

○実施する施策・事業の内容は、数値目標の達成に十分か

⇒取組内容に対して、目標とする数値が高すぎないか(低すぎないか)

⇒数値目標に対して取組が不足していないか